

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
副市長	一宮 努君
教育長	中島 清志君
総務部長	木寺 裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	犬束 幸吉君
しまづくり推進部長	三原 立也君
観光交流商工部長	阿比留忠明君
市民生活部長	村井 英哉君
福祉部長	田中 光幸君
保健部長	桐谷 和孝君
農林水産部長	平川 純也君
建設部長	内山 歩君
水道局長	舍利倉政司君
教育部長	扇 博祝君
中対馬振興部長	原田 武茂君
上対馬振興部長	原田 勝彦君
消防長	井 浩君
会計管理者	勝見 一成君
監査委員事務局長	志賀 慶二君
農業委員会事務局長	栗屋 孝弘君

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。

ただいまから議事日程第3号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、4人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 皆さん、おはようございます。10番議員、対政会の小島徳重です。

通告に従い、3項目4点、お尋ねします。

1項目めは、ふるさと納税についてお尋ねします。

1点目、ふるさと納税の寄附額増額については、令和4年9月議会、続けて12月議会においても質問をし、その中で提言をしてきました。支援企業も変更され、その成果も徐々に現れているようで、令和5年度の寄附額は、初めて3億円を超えたとお聞きしております。しかし、このレベルで満足してはいけないと考えます。対馬の製品の魅力が十分に発信されていないと感じます。県内はもちろん全国的にも、各自治体とも、ふるさと納税の獲得に力を入れ、競争は激しくなっています。ふるさと納税を通して地域おこしを推進するためには、対馬市も目標額を設定し、官民一体となった強力な取組が求められています。市長は、3月の市長選挙において、ふるさと納税の獲得に力を入れると表明されていきました。改めて、就任後、市長のふるさと納税についての所見を伺いたいと思います。

2点目、企業版ふるさと納税についても、対馬の環境問題や人材育成等について、関心を持って寄附してくださる企業が出てきています。令和4年度、8件、7事業者、5年度、9件、8事業者と、一定の成果が上がっていると伺っていますが、さらなる拡大ができるのではないのでしょうか。対馬で事業を展開されている企業や対馬出身者が経営されている企業などへの働きかけをしていきたいという、以前、答弁があっていたように思いますので、ぜひこれを生かしていただきたい。副市長二人体制も動き出しました。市長や副市長のトップセールスを含め、積極的な取組が期待されます。市長の所見を伺います。

2項目め、就学前の教育・保育の充実についてお尋ねします。

幼稚園入園者の減少傾向に歯止めがかからない状況が続く、本年度、在園者は厳原幼稚園3クラス合わせて12名、鶏鳴は8名、比田勝は幼稚園部9名と把握しております。集団を形成しながら、人と関わる力を育成するという幼稚園教育の狙いが、達成できない状況になっているのではないのでしょうか。各幼稚園の現場の先生方の創意工夫の範疇で解決できないと思います。幼児教育の組織編成の在り方が問われていると思います。

幼稚園教育の充実については、令和5年3月定例会においても、一般質問で取り上げましたが、教育長は、今後、検討を進めると答弁されました。市長も、課題解決が必要なことがあれば検討する旨の答弁をされております。そして、本年1月に開かれた総合教育会議でも、このことがテーマの一つになっていたように伺っております。そのような内容を踏まえて、幼児教育の組織編成の在り方を御答弁いただければと思います。これは、幼稚園のみならず、認定こども園、保育所の在り方、配置も含めての打開策だと思います。だから、これは教育委員会のみの判断だけではなかなかできないと思いますので、市長部局のほうのお考えも伺わなければいけないと思っています。

3項目め、海に関する教育の充実についてお尋ねします。これ、海に関する教育という言葉はあまり聞き慣れないんですけども、ここでは、あえて海に関するということで、広い意味で使わせていただいております。

対馬市総合計画、対馬市SDGs未来都市計画では、対馬市の地域特性として、「森里海の恵みは対馬の基幹産業である農林漁業や観光業の存立基盤となり、島民の暮らしや125のコミュニティを支えている」と記述されています。また、市長は一昨日の行政報告の中で、「対馬は海に四方に囲まれ、対馬の社会経済は海の豊かさが支えている」とこう述べられました。そのとおりだと思います。

しかしながら、対馬の漁業・水産業従事者の減少、高齢化が著しく、漁業・水産業を含めた関連産業の次世代の育成が必要かと思います。教育委員会の重点施策には、地域を支える人材の育成、それを受けて、重点努力事項には、ふるさと学習の充実が掲げられています。ふるさと学習の一環として、海に関する学習を位置づけ、次世代を担う子どもたちが、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進すべきではないでしょうか。対馬らしさ、対馬独自の教育の在り方を教育長、教育委員会、それから市長部局にもお考えいただく、そういう意味で問題提起をさせてもらっております。

以上、3項目4点について、いつものように簡潔明瞭なる御答弁をお願いいたします。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。小島議員の質問にお答えいたします。

2点目の修学前の教育・保育の充実について、3点目の海に関する教育の充実については、後ほど教育長のほうから答弁いたしますので、私のほうからは、1点目のふるさと納税について答弁いたします。

初めに、ふるさと納税についてでございますが、まず、目標額の設定について、これまで寄附額が2億5,000万円前後であったことから、寄附額をもっと増やしていくために、令和5年度から、県内でもふるさと納税の支援業務実績がある事業者へ支援業務委託を変更し、令和5年度から令和7年度までの3か年計画の中で目標額を5億円と設定し、事業に取り組んでいるところでございます。

取組内容としましては、対馬市のPRを兼ねたカタログを制作し、寄附実績のある方への送付や、受付窓口となるポータルサイト等の表示形式等、掲載内容の改善を行っております。また毎月、寄附金額、返礼品ごとの申込み状況、対応可能数量やサイトへのアクセス状況、寄附者のレビューの確認・検証を行い、寄附者のニーズに合った配送方法、商品開発など、返礼品登録事業者の皆様の協力を得ながら、魅力ある返礼品となるように取り組んでおります。

令和５年度末の返礼品登録事業者は６２業者、返礼品は６９０品目を登録し、寄附額は１万５,３０８件の総額３億８０３万９,０００円となり、過去最高の寄附の申込みをいただいております。

寄附金の使途は、令和５年度の実績で２１件の事業に充当し、主なものは博物館事業、市営有償バスの運行事業、海洋漂着物等地域対策事業、有害鳥獣捕獲補助金及び学校等の施設改修費などに活用をしております。

返礼品は魚介類、農作物、食品、木材等の加工品が主であり、クエ鍋セット、マグロ、アナゴ、イカの加工品、米、ブルーベリー、蜂蜜などが上位を占め、高額なものとしたしましては、若田石すずり、対馬産真珠、対馬ヒノキを使ったテーブルやサイドボード等の家具の申込みがっております。

令和５年度の返礼品事業者への支払い総額は１万７,４８１件の約８,１９３万円であり、登録事業者ごとの返礼品のアイデア、工夫が行われ、返礼品を提供することで、地域おこし、活力となっているものと考えております。

今後の取組としましては、市内のあか牛生産者の経営維持及び意欲を向上させる一環として、長崎和牛生産登録事業者が肥育した、対馬生まれのあか牛を取り扱う事業者を返礼品事業者として登録し、このたび、国から返礼品登録の承認をいただきましたので、返礼品として提供することとしております。また、現在提供している魚介類、農作物等の返礼品を、主に返礼品として登録条件を満たす製造・加工等を行われている事業者等に登録を促し、魅力的な返礼品の提供ができるよう取り組みを強化することで、さらなる地場産業の振興と財源確保に努めてまいります。

次に、企業版ふるさと納税の寄附増額に向けての取組強化について御説明いたします。

まず、令和３年度より取組を開始した企業版ふるさと納税のこれまでの実績でございますが、令和３年度は３社、４件の２３０万４６３円、令和４年度は７社、８件の１,５５２万５９７円、令和５年度は８社、９件の４７３万８,６０６円であります。

寄附金額は、その年の大口寄附金の兼ね合いもあり、昨年度は大幅に落ち込んでおりますが、継続した寄附企業も含め、寄附件数は若干でございますが増加傾向でございます。なお、本年度については、次世代海業創出プロジェクト研究として、公民共創による新事業創出により、海洋問題の解決に貢献できる人材を育成するため、対馬ブルーカレッジ事業へ御賛同いただいたサラヤ株式会社様より、多額の御寄附をいただきましたので、学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学にブルーカレッジの運営をしていただくこととしております。

次に、これまでの取組でございますけれども、市ホームページなどＳＮＳ等での発信はもとより、対馬にゆかりのある企業や本市のＳＤＧｓ等の持続可能な取組に賛同をいただける企業等へのトップセールスをはじめ、福岡、関西、東京の各対馬会など関連団体への周知ＰＲ等を行って

まいりました。昨年度におきましては、各企業に応援していただきたい本市の施策事業を明確に把握いただくため、対馬市重点寄附募集事業として海岸漂着物対策関連事業や、対馬3高校魅力化推進事業など10の重点事業を選定し、SNS等でPRしているところでございます。

最後に、本年度以降の取組強化策でございますが、新規の取組といたしまして、国内で一番企業利用の多いプレスリリース配信サービスである、PR TIMESによる情報発信を行うこととしております。本情報発信ツールは、利用企業数が約8万7,000社であり、国内上場企業も約2,200社が利用していることから、掲載後の転載メディア等の効果も含め、本市の情報や課題解決のための施策内容等をこれまで以上に強力に発信できるものと期待しております。その他、他市町のPR手法を研究しながら、あらゆる手法を検討し、人口減少対策施策への財源確保に努めてまいります。

私のほうからは以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 小島議員の質問にお答えいたします。

初めに、就学前の教育・保育の充実についてでございますが、令和6年度、各幼稚園の園児数は、厳原幼稚園が定数105人に対し、在籍12人、鶏鳴幼稚園が定数105人に対し、在籍8人、比田勝こども園（1号認定）が定数54人に対し、在籍9人であります。3つの園の合計人数は、昨年度よりも8人減少となっており、議員が御指摘のとおり、在籍園児は年々減少傾向にあります。

在籍園児減少の要因といたしましては、保育料の無料化に加えて、共働き家庭の増加に伴い、保護者のニーズとしては、第一に、子どもを長時間預けられることが上げられます。こども園の幼稚園部では、有料の一時預かり事業を行っておりますが、令和4年度の実績は、6世帯7人の園児で、合計40日間、令和5年度は1世帯1人、1日の利用であり、今後も利用者増加の見込みは少ないものと思われまます。

こうした状況の中にあり、各園では、適切に教育課程を編成することにより、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即した、丁寧な教育活動を行っております。園児が減少することにより、保護者や地域とのつながりを強めたり、異学年交流などに加え、同年齢での発達状況に応じた教育のため、近隣の保育施設や民間のこども園と交流するなど、幼稚園教育の狙いの実現に向けた教育活動に取り組んでおります。

幼稚園の今後の在り方といたしまして、幼稚園の適正配置につきましては、第2期対馬市立学校及び幼稚園等統合推進計画に基づき進めてまいります。また、保育所については、対馬市保育所配置計画に基づき進められます。

園児数の推移や幼稚園教諭、保育士確保等の状況を踏まえ、幼稚園の統廃合や民間への移管、

さらには、近隣保育所と併せたこども園への移行など、様々な案について、重点的に関係者の皆様と検討してまいります。

次に、海に関する教育の充実についてでございますが、御承知のとおり、教育委員会では、ふるさと学習の充実により、地域住民や保護者とともに地域を支えていくことができる人材の育成を重要施策の一つに掲げております。このことを受け、各学校では、主に総合的な学習の時間において、校種や地域との連携を深めた取組の中で、歴史や自然、文化、環境問題などを題材に、ふるさと対馬のよりよい未来を想像することができる、資質や能力を持った児童生徒の育成を図っているところでございます。

御質問の海に関する学習を施策に位置づけることについてですが、現在、総合的な学習の時間に限っても、小学校において15校中14校、93.3%、中学校においては11校中7校、63.6%が海に関する学習に取り組んでいるところです。学習指導要領の解説、総合的な学習の時間編では、実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにすることが目標の一つに掲げられています。

本市におけるふるさと学習は、この学習指導要領に示されている指導計画作成上の配慮事項に基づき、学校や地域の実態に応じるとともに、児童生徒の興味や関心に基づき、自ら課題を立て、探究的に学ぶことを狙いとして、各学校が主体的に実施しているものです。

現在、既に小学校の9割以上、中学校の6割以上が海に関する学習に取り組んでいるところでありますので、それ以外の学校に対し、教育委員会から一律に、海に関する学習の位置づけを指導することは考えておりません。しかしながら、水産業に限らず、他の業種においても、今後、ますます人材不足が進行するおそれもあります。

教育委員会といたしましても、ふるさと学習をはじめとするあらゆる教育活動を通して、児童生徒に望ましい勤労観や職業観を育むとともに、対馬を愛し、これからの対馬を支えていく人材の育成につなげる必要があると考えております。そのため、関係各団体の皆様とも連携を図りながら、各学校への積極的な情報提供に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 御答弁ありがとうございました。

まず、ふるさと納税のほうから行きたいと思いますが、私、質問の中で、目標額を定めて進めたらどうでしょうかという提言をしましたら、既に市長のほうで、昨日も糸瀬議員のときに御答弁で5億円という数字を出されましたので、これ、令和7年度末で5億円ということの考え方でよろしいですか。

今年、5年度で3億円だから、2年間の間で、令和6年度、令和7年度で5億円というのは納

得いくというか、役所として考えられるレベルとしてはそうかなというふうにも思います。しかし、それで満足じゃなくて、もう少し先のところを考えられたビジョンといいますか、目標というか、そういうものは考えてありますか。どうぞ。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この令和5年度から令和7年度までの3か年の中で、5億円までは押し上げたいということでございまして、これは、例えば同じ委託事業者であります、壱岐市や五島市のほうを見てみましても、やはり急激に上がっているというようなことから、担当課のほうともいろいろと協議をしながら、5億円を目標としております。

私といたしましては、先ほど答弁いたしましたとおり、対馬あか牛が、ふるさと納税のほうに登録されて承認が得られたということで、これからは、これ以上に伸びていくものというふうに期待をしているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 私は7年度までの数字の上に、それから先の3年なり5年先の数字が、市長のほうから示されるかなと思ったけど、それはなかったんですけども、ほかのところのお話を持ち出してみたいと思うんですが、ここにパネルで示していますし、タブレットにも出ていますけども、壱岐市が今年度の予算を組むときに、10億円を目標という設定をされたことは御存じだと思います。資料もそこにお渡しをしています。

それで、壱岐市の今までの推移を見ますと、壱岐市も令和元年に初めて3億円を超えたんですね、市長に手元に渡していますけども。それから、令和3年までは、3年間は3億円台でした。そして、令和3年から令和4年の間に1年間で倍増以上の7億円幾らまで壱岐は行ったんですね、そして、今度は10億円の設定をされました。だから、やはりそのあたりは、ここ1年様子を見られて、ほかの自治体が頑張っている、そういう中でもう少し高い目標設定、5年先なりを目指すという長期的な施策設定が必要かなということでお話をさせていただきます。

そして全国的にもですが、長崎県は特にここ数年、各自治体、ふるさと納税にすごく力を入れているんですね。その資料は市長の手元にお渡しをしていますけども、今まで力を入れていなかった、例えば、佐世保市が今県内で一番になったんですね。これは、平戸市が全国1位になったことの刺激を受けて、佐世保市は近隣だしもっとやれるんじゃないかということで、やはり目標設定をしてここまで来ています。

そしてパネルには出ていませんけども、市長の元に渡した資料には、長崎県内で10番内に入っている自治体は、全部ここ三、四年ですごく上がっています。資料を渡しているでしょう、それを見ていただいたら、全国的にも長崎県の自治体はずっと上に上がっていったんです。対馬だけ取り残されないように頑張っていたきたいなということで設定しました。

今度、大村市のことをパネルに出しています。大村市はボートですごく稼いでいて、財政、ある程度豊かなんですけど、大村市も今度、市長が新しくいろんな施策を打ち出した中で、自動販売機でふるさと納税を受けるという施策を打ち出しました。このことについては、市長、以前も投げかけしたんですけど、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私のほうも新聞記事で読ませていただいたということで、出張の折に、どこに置いてあるのかなと思ってちょっと探してみたんですけど、見つけることはできなかったということで、また今度の機会にどのような形になっているのか、そしてまた、大村の市長とも話す機会があれば、いろいろとお話を聞いてみたいなというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） これは、既に全国的には多くの自治体に取り組んでいますしね。これは、すぐまねしなさいと私は言っているんじゃないんですね。大村市は、城跡の石垣を寄附した人に石垣の一つ一つをSNS上で所有権を与えると、施策も打ち出しました。そのことは、ちょっとパネルに出ていないんですけど。これも新聞記事で私も見たんですけども、ここに上げておりますパネルのほう、タブレットを見ていただいたら、部長さん方も見れると思います。

これも対馬市、歴史的な遺産とかたくさんありますよね。そういう中で、やっぱりアイデアとしてすごいアイデアだなと私は思ったんです。だからやはり、今、アイデア競争になっているわけです。だから、それをすぐまねしなさいということでお願いをするわけじゃないんですけど、知恵の出どころはいろいろあるんじゃないかなということで、一応提示しておきます。

三原部長うなずいておりますので、ぜひまた部内でよく検討していただいて、頑張ってくださいなとエールを送っておきたいと思います。答弁はいりませんが、そういうことができます。

それから企業版ふるさと納税についても、これ全国的に始まってまだ浅いですよね。これも、長崎県内も、自治体も、それから全国的にも、すごくこれに力を入れ出しています。これは、いわゆる国に申請して創生事業をやれば、国が認めれば、関係企業が寄附をしてくれる。これは返礼品もないわけですよ。だから、実入りがいいというか効果的だというふうに考えます。これも、3年間で10倍くらい全国的に伸びています。ここでは時間がありませんから詳しくは述べませんが、これもぜひ、よく検討していただきたい。

これ私、一つだけ苦言を呈したいのは、私、あるときにふるさと納税、一般的な納税のことで役所に行ったんですよ。そのときに、対馬市は企業版ふるさと納税はやらないんですかと言ったら、ある担当職員の方、名前は私覚えてないんですけど、こう言われたんです、「企業版ふるさと納税は手がかかるんですよ、国に申請してやらなきゃいけない」という感じの言い方が、積極的

じゃないなというふうに受け取りましたよ。

それで私は、令和3年の12月議会で質問をした記憶があります。そしたら市長は、やりますと言われたんですよね。そして、準備期間において令和4年から動き出した、対馬市は。それで、これ担当だけではなくて、やっぱり意識の中でそういう強く思っていれば、そういう言葉は出ないんじゃないかなと思ったんですよ。昨日は糸瀬議員がこう言われました、「18歳未満の人口、幾らですか」と言われたときに、すぐぱっと出なかったじゃないですか。これも、やっぱり意識の問題だというふうに感じるんですよ。そういう意味では、ぜひ頑張っていたきたいと。

そして、副市長が二人体制になったということを申し上げましたよね。企業を回られたりとか、あるいはふるさと納税をしてくださる方々への挨拶とか、セールスというか営業というか、行政の中でもできることがいっぱいあると思うんですよ。そのあたりは、2人、副市長ができればしたが、どちらの副市長が、ふるさと納税関係は担当されますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 教育委員会のほうは、今度、副市長になりました一宮副市長のほうを担当するようにしております。

そして、また、先ほどの話の中にも出てきました、大村市のNFTの活用関係ですけども、対馬市としましても、このNFTの活用に向けて、もう既に今、海岸漂着ごみで試作品等を作っておりますので、今後、これをもっと充実させてまいりたいと思っております。（「ふるさと納税」と呼ぶ者あり）

すみません、ふるさと納税のしまづくり推進部の関係は一宮副市長でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） それで、先般、一宮副市長が就任の挨拶されましたよね。それを聞いて、とある市民が、自分はこういうことをやるんだということを述べられたとあって、市民の方から、何かやはり期待できるなという声を聞きましたよ。ぜひ、そういうことをふるさと納税に限らず頑張っていたきたいということで、一応、このことは置きたいと思います。

それから、今度は教育委員会のほうに行きます。

中島教育長さん、朝から教育委員会へ質問をしまして恐縮ですけど、前回したことから、何か先に進んでないなというふうに、僕、受けたんですけど、もう少し幼稚園の問題にしては、これ私、幼稚園のことだけで聞いているわけじゃないんで、先ほど言ったように、総合教育会議の中でかなりこのことについては意見が出ていたじゃないですか、これは市長もよく御存じだと思います。市長や部長たちも出てあったんですから。もう少し、これは幼稚園の中の教育課程の問題とか、そういう問題はもうこの前終わったんですよ。だから、これはもう1クラス1人やとか2人、5人とかで駄目だから、組織全体を見直したらどうですかという提言をしていたんです。

総合教育会議でその話、出てないですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 答弁書の作成の折に、検討をいろいろしたんですけども、これを初めて聞かれる市民の方もおられるということで、背景を分かるように説明をさせていただきました。

今、御指摘のとおり、総合教育会議において、昨年の、市長からも市民のニーズとか現状を考えたときに、いずれはこども園的な機能を持った施設への移行が必要ではないかというような御発言もありました。

今現在、教育委員会として考えていることは、また後ほど、補足があれば福祉部のほうからお願いしたいんですけども、今後も、先ほど申しましたように、共働きの家庭が増加すること、また、長時間預けたいという市民のニーズもあることから、現在、こども園がありませんが、雞知地区、ここについても、こども園を設立する方向で検討しなくてはいけないのではないかという認識は持っております。その際、現在の幼稚園をどうしていくかということも含めまして、ここは教育委員会だけではなくて、福祉部と一緒に考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 総合教育会議の中でいろんな意見が出ていますよね、ここは決定権ないですけど。いわゆる教育行政やあるいは幼児教育やそういうことを進めるために、市長部局との話合いの場ですけど、その中に貴重な意見が出ていると思うんですよ。木寺総務部長が発言された中に、幼児教育の場の提供として、こども園の中で全ての3歳児から5歳児、幼児教育を行っていくと、そういう発言をされていますしね。それから、扇部長も具体的なことで出していますよね、こども未来課長時代のことを踏まえながら、雞知保育所、鶏鳴幼稚園、これをこども園化したらどうだろうかというような話をしていますよね。

そして、厳原幼稚園についても、先ほど教育長が言われたように、統合とかあるいは私立のほうにこども園化して任せるとか、そういう話まで出ていまして、そして、市長のほうもこういう発言をされておると思いますよ。幼稚園に入る人が少ないネックの2つが、給食がないということと早く帰るということで、保護者が預ける人が少ないという中で、市長はこういうことを言っています。ある園の園長先生から、調理パンでも提供してもらえないかというような話があったと。これ、教育長が答えてあります。ただ、市長に相談したら、対応してあげてもよいんじゃないかというような話も出たりしていますよね。

ということは、やはり今の現状の幼稚園の組織体制では不十分ということは、教育委員会も市長部局も把握してあるわけですよ。そうしたら、やはり教育会議で1月下旬にあっているわけですから、出たならそのことをもう少し詰める場があってもいいんじゃないかなと思うんですが、そ

の後、教育委員会と市長部局で何か相談というか協議されたことがありますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 教育委員会のほうでは、綿密なその後の調整等を行っておりません。

先ほどのパンのことに關してですけれども、ちょっと補足をさせてください。市長のほうから、パンの対応については市のほうから出してもいいんじゃないかという御発言をいただきましたので、幼稚園のほうに何曜日がいいのか、どのようなものがいいのかということで図ることは、昨年度いたしました。残念ながらその後、まだ話は進んでおりません。現在、給食のパンを業者さんが週に1回運んでおりますので、その際に一緒に運ぶことは可能だということで、今、回答は得ているところです。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 今は総合教育会議で、幼稚園の在り方や保育所、それからこども園との統合とか、くっつけること話とか出ていたから、こういう現状、令和5年度も令和6年度も変わらないような幼稚園の子どもの数で、このまましておくんですかと。そしたら、やはり総合教育会議で出たなら、次の対応をしなければいけないと思うんですよ。来年まだこのままの体制を続けますか。

そしたら、全国的な傾向についても、ここに資料を出していますが、前のときも言いましたけども、幼稚園の教育要領の中には、4時間の教育時間以外に、前後ろ、いわゆる預かる、これは教育長が言われる一時預かりのことじゃないですよ。きちんと制度として設定をするということが、幼稚園教育要領にうたわれているし、さっき、この前のときも言いましたが、全国的に、既に私立では98%、公立でも七十何%は預かり保育をやっているんです。対馬は、私立の幼稚園は1つしかないから、当然雞知と厳原の幼稚園は、そういうことに恩恵に預かりにくいから、そのままになっているんですけど。

豊玉のこども園ができますよね。豊玉のこども園をつくる時の理念というか、考え方を市長のところに資料を渡していましたが、分かりますかね、それを見ると、このときにこの案をつくった方は、すごく子どもたちのことを考えて案をつくってあるなというふうに、私は感心をして見せていただきました。その考え方が、多分市長も、パンでも出してやったらいいんじゃないかと、対応できるんじゃないかということになったと思います。

ぜひ組織をどうするか、保育所、幼稚園、こども園をどう配置するか、豊玉は立派なものができますよ。しかし、豊玉のこども園も預かりをしなければ、多分、比田勝と同じような状況になるんじゃないでしょうか、幼稚園部は少ないと。そういう現状があれば、そのところをしっかりと検討していただきたい。これは市長のほう、どうですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この幼稚園の子どもたちの園児の数がここまで減ってきているということが、私も、あまりにも早いなという切実な思いをしております。そういうことで、以前から、特にこの難知の幼稚園、そして保育所の統合は、合併当初からいろいろと検討は重ねられてきましたけども、これがもう実行に移すときに来ているなという思いを持っている次第でございます。巖原の幼稚園のほうも12名ということで、少なくなっているという状況でございますので、ここら辺も総合的に勘案して、検討を早い時期に重ねてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 今、市長がそういう言明をされましたので、ぜひ早急に、総合教育会議をもう一回開くなり、あるいは別建てにいろんな組織をつくるなりして、幼稚園教育が残るように、これは幼稚園として残さなくていいですよ、こども園の中に幼稚園部が残ればいいですよ、今度の豊玉みたいに。豊玉でできたことが、なぜ巖原や難知でもできないかということです。それは両方の教育委員会が幼稚園を所管しているから、市長部局との話し合いが十分されていないというふうに私は受け取っています。だからこのことは、来年はどうなるか、ゼロのクラスとかそういうのが生まれる可能性もありますよ、今のままでは。

ただ、私、ある幼稚園に行って、保護者とちょうど出会いました。そしたら、弁当さえあればということが出てきましたよ、まず、給食があれば、弁当を作らないでよかったですと預けやすいと、それから時間をもう少し考えてもらえればと、そして、幼稚園はやっぱり残してもらいたいと。保育所と幼稚園は違うということをやっぱり保護者も感じてあるんですよ。そして、幼稚園と保育所に両方勤めたことがあられる先生方は、幼稚園の教育が必要ですよということを言われますよ。これは、私も幼稚園に勤めたからよく分かるんです。そのことをしっかり受け止めてください。

教育長は、やっぱりもう慣らし運転は終わったんですから、教育長なりに特色を出すようなことを考えていただきたいと。それが子どもたちの、昨日も言ってたけども、少子化を防ぐことにもなるし、親が安心して働けるようになるんですよ。やっぱりそれを考えていただきたいと。

同じことが今の海に関する教育についても、教育長の答弁、指導要領にあって各学校やっけるからと、それはよく分かります。これは私、ESD教育のときも質問したときも、同じような答弁を教育長されたんですけど。だけど、対馬にとっては、海は貴重な財産ですよと。これは市長を含めて、対馬の島民全部がそう思ってるんですよ。

ただ、海に関する教育をなぜこのふるさと学習の中に1項目入れられないかと。朝鮮通信使に関する学習内容というのは項目がありますよ、ツシマヤマネコの野生動物のことを項目に上げてありますよ。それが上がって、なぜ海に関する教育が指導要領で書いてあって、そして、もう既

に各学校やってるからと、各学校やってることもまちまちですよ。

それをやはりきちんと教育委員会が、海に関する教育、これは海洋教育という言葉で国も打ち出しています。これは、市長にも教育長にも資料を朝渡しました。ぜひ、それもよく読んでください。これ、教育長は知ってあると思います。市長は初めて見たという、朝おっしゃいましたから、よく読んでくださいよ。そうしたら、海がいかにか大事かと、それも対馬にとっては、海が全てを生み出すもとですよということを分かっているわけですからね。

そしたら子どもたちに、対馬なりの海を大事にする、海で働こうと、海の産物を加工しようと、海の産物を販売しようと、そういう気概を持った子どもたちを育てていただきたいと、それを私はお願いをしているんですよ。通り一遍の表面の総合教育で学習やってるからと、それで終わってもらったら、対馬市の教育委員会の存在価値はないですよ。対馬市の教育委員会、対馬独自のことを打ち出したなということをぜひ中島教育長の時代にやってくださいよ。中島教育長も海のそばで育ったじゃないですか。海が大事かということはよく御存じでしょう。それをぜひお願いをしておきたいと思います。

そういうことで、ちょっと時間不十分だったんですけど、私、そういう思いを込めて、今日は質問をさせていただきました。お願いします。

○議長（初村 久藏君） 時間ですけど、簡単に。教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 先ほど申しましたのは、総合的な学習の時間についてのことを説明いたしました。小学校3年生、4年生以上は社会科の学習をしますけども、対馬市の子どもたちはこういう本を持っています。この中に、対馬の漁業等もありますので、全て社会科の中で学習しております。ですから、抜けがあるというわけではございませんので、そこは確認をさせてください。

以上です。

○議員（10番 小島 徳重君） だから、項目に1つ上げましょうよ。それを言っている。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からといたします。

午前10時52分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。11番、黒田昭雄君。